

生徒指導通信

令和8年5月15日
熊野町立熊野東中学校
生徒指導部

～「やりきる力」を最高の絆に変える体育祭～

いよいよ体育祭が目前に迫ってきました。クラスでの練習にも熱が入り、学級のまとまりが形になりつつある時期ですね。今年度の重点目標である「やり切る力」を、この大きな行事の中でどのように発揮し、自分たちの成長に繋げていくべきか。本番を迎えるにあたって、全員で共有したい大切な心構えを伝えます。

1. 挑戦には「失敗」がつきもの。だからこそ、笑わない、責めない

体育祭は、全力で挑戦する場所です。しかし、全力であればあるほど、思うような結果が出なかったり、失敗をしてしまったりすることもあります。ここで皆さんに約束してほしいことがあります。それは、「失敗した人を絶対に笑わない、責めない」ということです。

○「挑戦した証」を称えよう

リレーでバトンを落とした、競技中に転んでしまった、足がもつれてしまった。これらはすべて、その人が「今の全力を出し切ろうとした」結果です。一生懸命に挑んだ結果の失敗は、恥ずかしいことではありません。

○「責める言葉」が奪うもの

誰かの失敗を責めたり、笑ったりする空気が生まれると、みんなが「失敗するのが怖い」と感じ、全力を出すことをためらうようになります。それは「やり切る力」を最も削ぐ行為です。

○最高の「礼（礼をつくす）」とは

仲間が失敗したときこそ、励ましの声をかけ、肩を叩き合える集団であってください。それこそが、本校が大切にしている「相手を思いやる礼儀」の究極の姿です。

2. 「やり切る」の本当の意味を考えよう

○準備のプロセスをやり切る

委員会や係の仕事、応援の練習など、表舞台以外の場所で自分に任された役割を最後まで責任を持って果たしましょう。

○感情のコントロールをやり切る

勝って嬉しいときも、負けて悔しいときも、感情を爆発させて相手を不快にさせるのではなく、スポーツマンシップに則った清々しい態度を貫きましょう。

○最後まで声を出しきる

自分の出番が終わっても、まだ戦っている仲間や他学年の生徒に対しても、最後まで温かい声援を送り続けましょう。

これらの積み重ねが、閉会式のときに「やり切った！」という本物の達成感へと繋がります。



3. 体育祭という「場」で究める東中三訓

普段の学校生活で徹底している「時・場・礼」は、体育祭という特別な状況下でこそ、その真価が問われます。

○【時を守り】一分一秒を大切に動き切る

プログラムを円滑に進めるためには、一人一人の「時間の意識」が不可欠です。入退場の準備、集合など、自分たちで時間を判断し、迅速に行動する「自律」の姿を見せてください。

○【場を清め】グラウンドを美しく保ちきる

「場を清める」の精神は、グラウンドでも同じです。生徒テント周辺にゴミはないか、用具は整理されているか。競技の合間にさっと動ける東中生の美学を、地域の方々や来賓の皆さまにも示しましょう。

○【礼をつくす】すべての人に敬意を払いきる

対戦相手がいなければ、競技は成立しません。また、審判を務める係の生徒、会場を準備してくれたすべての人への感謝を忘れないでください。お互いを高め合うライバルとして、最高の「礼」を尽くし合ひましょう。



4. 「自分たちで創る」という誇り

○リーダーだけに任せない

委員や応援団長など、一部のリーダーだけが頑張るのではなく、リーダーの想いを汲み取り、一人一人が「自分にできること」を見つけ、主体的に動くことで、学級というチームは「最強」になります。

○「自己有用感」を実感しよう

「自分の行動が、体育祭の成功に繋がっている」という実感（役に立っている実感）を、全員に味わってほしいと願っています。

5. 祭りの後も、道は続く

○日常へのアップデート

体育祭で発揮した「粘り強さ」や「仲間への声掛け」を、翌日からの授業や部活動、そして日々の「当たり前の徹底」に持ち帰ってください。

○「失敗」を成長の糧に

もし今回の体育祭で悔しい思いや失敗をしたとしても、それを「自ら課題を解決し、成長するチャンス」と捉えて振り返ることができれば、それは皆さんの確かな「やり切る力」へと変わります。

「当たり前」のその先へ。

失敗を恐れず、仲間を信じ

熊野東中学校の歴史に残る最高の体育祭を
皆さんの手で「やり切って」創り上げましょう！